SHIEN アカデミー Press

Vol.15　SHIEN学の進化と深化

INDEX

- 代表理事からのメッセージ　SHIEN学の拡がりかた　……P1
- SHIEN学アドバイザー　「わたし」が天分　～天分で生きるということ～
  松田　瑞恵　（SHIEN学アドバイザー）　……P2～P3
- SHIENアカデミー活動報告　（SHIENアカデミー長崎、SHIENアカデミー熊本）
  伊藤　めぐ（SHIEN学マスター）　……P4～P7
- 今後の予定（３つのコースとセミナー）　……P8
- 私とSHIEN学との出会い（シリーズ ３）初代牧之原市長　西原　茂樹　氏　……P9～P11

SHIEN学の拡がりかた

SHIENアカデミー代表理事　たておか やすを

SHIEN学で講演やワークショップをすると、多くの方々が何かを感じてくださり、この道に進んでくださいます。アドバイザーやマスターの道を、共に歩んでくださいます。この考え、この思想、この科学は、これからの個人、家族、社会、世界において不可欠だと。そして、「これからSHIEN学はどうやって広まりますか、広めますか」と尋ねられます。

次のようになっていくと想います。SHIEN学は、今年１階の原理原則が整っていきます。ここが腑に落ちないと、SHIEN学は始まりません。この土台がしっかりしないと、その先に進めません。そして、この１階を踏まえ体現した方々が、各人の置かれた環境、個性、専門領域で独自のSHIENのプログラムを立ち上げていきます。そして、SHIEN学は広まり、世の中を変えていくことになるのです。

ですから、SHIEN学の原理原則を整えたいと想います。そして、それぞれの志ある方々と一緒に独自の各々の領域のプログラムを創ってまいりましょう。経営者の領域、組織変容の領域、天分の領域、介護の領域、教育の領域、医学の領域、社会システムの領域、政治の領域などなどです。

そして、それを実践して参りましょう。その時、何が齎されていくのか、それがSHIEN学という科学の実証となります。もう一つ大切なことは何でしょうか。それは、こずぱらの体験と“気づき”を記録していくことではないでしょうか。そのデータによってその背後にある意味と価値と力を明らかにしていかねばならないと想うのです。今までの科学とは異なる、２１世紀に人類が創り上げねばならない、精神の科学ともいうべきものが、SHIEN学なのです。SHIEN学で新たな重なり合いを創り、心を揃え力強く進んでまいりましょう。



Photographed by Yasuwo TATEOKA



松田　瑞恵　さん

SHIEN学アドバイザー「わたし」が天分 ～天分で生きるということ～

☆自己紹介

福岡で２人目のSHIEN学アドバイザーとなりました、松田瑞恵と申します。今年、２０歳と１８歳を迎える息子たちと３人で、楽しく自由に暮らしています。「学校に行けない経験をした長男」と、「学校に行かない選択をした次男」のもとで（笑）、「子育ては苦手」と思い込んでいたわたしが、SHIEN学と出会い、親子での気づきと枠組みからの解放の中で、「育てられているのは自分」を、実感！実践中!です。

大切にしていることは、３つあります。

『心して笑って生きるということ』

『喜ばれることが喜びとなる』

『「わたし」がよりどころ　自由　ということ』

こころを決めて、こころを尽くし、笑って、喜びを喜びとし、「わたし」自身が自然体で自らを由（よし）とした姿勢で生きていくという想いを込めて、表現している『瑞恵ことだま』です。わたしの文字でことばをつづるというわたしの天分でもあります。

☆SHIEN学を知ったきっかけ

2016年、「生命の樹」研究家、小西温子先生の講座で紹介されていたのが、舘岡康雄先生の著書、『世界を変えるSHIEN学』でした。その時は、手帳に書いていただけ（笑）でしたが、その後、１年以上経ったある日、ふと思い出し、その本を読んでみたところ、とにかく「この先生に会いたい！！」と思いました。すると、１か月後に本当に舘岡先生にお会いすることができたのです！いきなりのコーズパラダイムがやってきた感覚でした。この当初から「SHIEN学と出会うためのこれまでだったし、SHIEN学に出会うために生まれてきた」、という印象でした。

次ページへ続く▼

「わたし」が天分　～天分で生きるということ～

▼前ページよりつづく



☆アドバイザー資格をとったときのこと

2018年１月に京都、５月に大阪、９月に東京でアドバイザー講座を受け、１０月に福岡で認定試験を受けました。この間に、７月、１０月、１２月と、島原で開催された「天分発見ワークショップ」に参加し、アドバイザー講座と天分発見ワークショップを交互に深めていく形となり、わたしにとって、とても良いタイミングとなりました。

『天分』が立ち上がっていることで『SHIEN』が活かされていき、『天分』によって『SHIEN』で生かされていくということを心から体感しました。

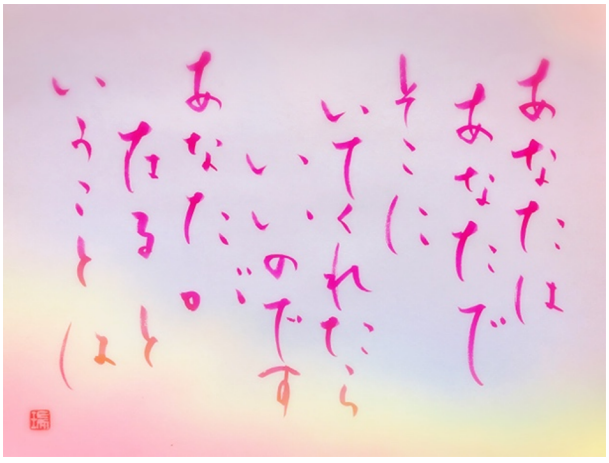
寄りそって「してもらう／してあげる」を交換していくことで、お互いの場で活かされ、生かされていることのへのありがたさも受け取ることができました。

『天分』を引きだされた力で、わたしらしい表現方法として、「紙芝居」という形で認定試験に臨みました。『天分』は、ひとりでは気づけないもの。一緒に深めている仲間からの「紙芝居でするのが瑞恵さんらしい」という言葉に後押しされました。これがその通り、製作にどれだけ時間を費やしても、楽しくてしょうがないことで表現できたことで、達成感と喜びを感じられました。

☆今後の実践について

子どもの頃から大好きだった文字を書くことと、イラストで喜んでもらうことの表現で、「わたしらしく、わたしで在り、わたしを生きる、そしてわたしが『天分』である」という意識になれたことで、『自由＝自らをよしとすること』を自然に表現し、そこから誰かの気づきが生まれ、「してあげる／してもらう」の場をつくっていけたらと思います。

学ぶことはひとりでできても、気づくことはともに深めて、動く力にしていけることを、SHIEN相談会を通して寄り添っていけたら幸せです。



SHIENアカデミー活動報告

SHIENアカデミー長崎・SHIENアカデミー熊本

伊藤　めぐ（SHIEN学マスター）

12月は九州で二つのプログラムがありました！
長崎県島原での天分発見ワークショップと、熊本市でのSHIEN学セミナーです。
ご参加いただいた方の中で、メッセージの公開にご了解いただいた方の中から、
その一部をご紹介いたします。
温かさの創造の中で、一人ひとりが自分自身が立ち上がって来る喜びが
ストレートに伝わって来ますね・・・

◆2018年１２月１５日～１６日

天分発見ワークショップin島原Soul Blossom（３回目）





＊ 誰といるか、どこにいるかが いかに大事か実感した「私は今のままでいい」「私はもっと素晴らしくなっていく」当たり前にやっていることを「得意なこと」として意識していきたい。今やっていることの「その先」へ行ってみたい。
＊ 心が重かったとき「重い」と吐けた、時々泣きそうになっても皆が一生懸命聞いてくれた。他人の評価で不安定に生きてきたけど、今は「私が私でいいと思うこと」が大切だと気づけた。それが楽になれた。自己肯定を加速して、他人も肯定して「大丈夫！！」と（自分に言ったように）たくさん言ってあげたい。
＊ 天分を教えてもらい、自分でようやく受け入れる準備が整った。仲間を通して気づきを得ると一人では気づけないことに気づける、シンクロする。このメンバーと、島原で濃い時間を過ごすことができたことに感謝。「天分を知りたい」から始まったけど、三回目には自分の天分を言えるようになっていた！「場」「仲間」「環境」が整っていれば、どこでも誰でもやっていけるという安心感がある。このワークを通して、家族への感謝の気持ちをあらためて強く感じた。
＊ ひとりひとりに光を向けることを学んだ。SHIEN学アドバイザーから試みたい。深い関係性から今後を歩みたい。２０１０年に生まれた天分発見ＷＳ、２０１８年までの皆さまとの出逢いに感謝。つながりができました。

次ページへ続く▼

＊ みんなの前で話すことで気持ちの整理ができた。子供のころに遡って自分の天分をさぐるワークは、忘れていたことに気づかされて、とても意義があった。まずは身近な家族、職場の仲間との関係性を深めていきたい。今日は１日だけでしたが、次は泊りがけで！

＊ 自分の軸が少しづつ分かってきた。人と人とのコラボを考えるのが楽しかった。自分にはしっかりとした「美意識」があり、それを大切にしたいと思っている事を再認識。自分では思っていなかったけれど、人と違う視点で物事を組み立てていることがある。空想を現実に変えていけるように、相手の才能を引き出すだけでなくいろいろな形のビジネスや展開方法を学びたい。

＊ みなさんとの交流は、新たな出発になります。自分を知るきっかけをたくさんもらった！安全なシェルターで発言できたことは自分を信じることにつながりました。自分から重なりをつくっていきたい。同じ志を持った方々と同じ空間を過ごせて幸せでした。私の宣言した想いは、言葉になり、祈りになり、行動となっていきます。自分で立っていく恐怖、自己不信から動くことができそうです。気づきは人と人の間で起こる。私は天分を生きていきます。

＊ 気づいていそうで気づいてない天分、奥深い。天分は他者から教えてもらうもの。非常に濃くて温かな２日間を共有できたことは今後の財産。

＊ 想像を超えた素晴らしいプログラム！楽しかった！温かい仲間と重なりを見つけ寄り添うと、すごいスピードで共同創造できていくことに気づいた。このコミュニティを今後つなげて、たくさんの方の天分を発見していきたい。天分をお互いに見つけあう、見つめあう、引き出しあう、称えあうことはどれだけ人を温かな気持ちにするのかを知りました。天分が立ち上がってこそのＳＨＩＥＮの関係性、天分を見つけるって本当に大切なことですね。

＊ 何が天分で、何が自我なのか分かった気がする。天分には喜びがあり、自我には身勝手がある。天分を引き出してもらいながら天分に向かっていきたい。この場所だから学び合えた仲間なのだと思った。この先も、その場、その時間に集まる人たちと深く学び合っていきたい。

＊ 気づきの起こるメカニズムみたいなものが分かった気がした。自然の流れを信じ切り、自分の人生に身をゆだねて「気づこう！気づこう！とすること」をやめよう。言葉では表現しづらい何かが内側で起こっていた、とても不思議。

＊ 正直に話を引き出しあうことができた。「自分」を再構築できた。ＳＨＩＥＮは関係性の学問であることが、今回とてもよく分かった。「天分とは生きながら他者との関わり合いの中で見つけるもの」最初はよく分からなかったけれど、時を追うにつれ「誰かの為に動くこと」が解になるのだと体感した。

＊ 今までなら、文字にすることへのこだわりがあったけれど「できなくてもＯＫ！」と自分を許せた。二日間、喜びと笑いと楽しい！を満喫した。グループ発表では、３人の思いがまとまらなかったけど、まとまらないこと、形にならないこと、それもまた答えだということに気づいた。自分の内側、外側から出るひとつひとつを大切に向き合っていきたい。すべての重なり合いの中で、お互いがお互いの天分を引き出しあう素晴らしさ。３回を終えて、結果ではなく、その過程、そしてその先まだまだ続く道のりがまた楽しみ。

＊ とにかく楽しかった！３回目の初日（昨日）まで天分だと思っていたことの、さらにその先に天分があった！天分を発見する旅の辿りついた場所は「自分が自分で在ること」でした。「わたし」自身を生きることが天分であることに気づいた幸せを感じています。



次ページへ続く▼

◆2018年１２月１７日

温かさの創造　ＳＨＩＥＮ学 熊本セミナー



＊ これまでの支援では「強→弱」「上→下」「富→貧」の図式が存在し支援を受ける側にどの様な精神状態を生み出すか…そこを思うと苦しくなり、支援しようと思う側も躊躇してしまう、そういう感情が生まれないＳＨＩＥＮは素晴らしい！まずは自身の足元から、この考えに基づいて実践していきたい。
＊ ピン！と来て参加。私のこれまでの人生や経験で、こうあるといいなぁ～とイメージしていた世界観がまさにＳＨＩＥＮ学！もっと深めてみたい。
＊ ＳＨＩＥＮ学の、重なりを作って「してもらう／してあげる」を交換する、「対等の関係」「正しい答えは一つではなく一緒に立ち上げるものである」「心を重視する」に共感。プロセスパラダイムの考えでみんなが動けば、平和で幸せな社会（世界）になると思う。組織、学校、どんどん広まってほしい。
＊ 今の教育が合わなくて学校が嫌いで、スエーデン教育に興味を持っていたが、その必要性が今日の話でわかった。色々考え方を学んだけれど、ＳＨＩＥＮ学がこれからの時代に必要となると思う。これから未来を生きる子ども達、個性を持った子ども達は、今までの教育は苦しいので天分を見つけて支え合うと良いと思う。子ども食堂でも、それに気づける人を増やしていきたい。
＊ 舘岡先生のお人柄に実際にふれ、益々ＳＨＩＥＮ学の虜に！教育界でもこのＳＨＩＥＮの輪を拡げていきたい！！そのためにどう動いたらよいのか気づきたい、もっと学びたい。ＳＨＩＥＮ相談会では、相談をしながら自分にも気づきが生まれ、質問をしながら自分にも気づきが生まれ、とてもありがたかったです。ステキなアドバイスに胸が熱くとても温かい気持ちに…。また、めぐさんに逢いたい？自分もこのようなあたたかな場を作っていきたい。
＊ ＳＨＩＥＮ学、まさに今私が欲している内容でした。これが世界に広がり、新たな時代では皆心の深い部分が繋がることができたらとても素晴らしい世界になると思いました。天分発見も気になります。
＊ 何となく参加しましたが、思っていた以上に得るものがありました。コーズパラダイムの話にとてもトキメキました！望んでいる世界の到来！？ＳＨＩＥＮ学の中でそういう変化が起こる過程を知りたい。相手の方の悩みに応えようと考える質問にも、それぞれ違う悩みの答えが自分の答えにもなり、いつもと違う何かが働く不思議な感覚。初めて会う人とこんな関係を築けるなら、小さな世界はどんどん変わっていくと思う。
＊ 自分の天分を知るきっかけをつかみたくて参加。周囲の意見や情報に振り回されてしまいます。自分の意見を持つこと、これが自分の声であることに気づくことが苦手だと最近気づきました。もう少し学びたい、自分が自分であるために、他者が他者であるために。
＊ まさしく最近私が想っていた事、こうなればいいなと想っていた事！してもうらう／してあげるを交換する社会になったら本当に素晴らしいなと思う。その為には、天分、本当の自分を立ち上げる事が大事になってきます。してもらえる能力と関係してくるのでは？天分というものにとても興味があります。ワークでは質問をすることで相手の方が自分の答えを言ってくれたり、自分の質問に答えることで考えが具体的に整理できてさっそく実行できるようになっていました。アドバイスを書いてもらって、とても温かい気持ちになりとても励まされて、元気が出て嬉しかった。ＳＨＩＥＮ学もっと深く学びたい。

次ページへ続く▼

SHIENアカデミー活動報告

＊ＳＨＩＥＮ学、新しいようで懐かしい学びでした。パラダイムシフトのそれぞれの話がとてもおもしろかった。まさにリザパラがすでに過去のものであると、その違和感が世界に出ていると感じています。
＊日本人はこのＳＨＩＥＮの心は持っている、これをどう取り戻すのかがＳＨＩＥＮ学だと思いました。リザルトを大切にする時代を生きてきた人間として、プロセスを大切にする時代に入ったことを感じ、ＳＨＩＥＮ学の学問として自分の中にどう立ち上げるか、どうすれば本当のものを身につけられるかを感じさせられました。私の仕事は「してもらう/してあげる」をまさに行う仕事、これを大切にしていきます。
＊「してもらう」が能力だと聞いて、自分にはない能力だと感じた。「してあげる」はＯＫで、「してもらう」はＮＧだと固定概念を持っていたことに気づき、ここがクリアできれば人生はもっと楽しくなりそう！私の夢も地球が美しく人々が平和で心穏やかに暮らせること。ＳＨＩＥＮ学の輪が広がれば、確実に世の中は変わりますネ。子ども達の教育に、暗記ではなく、心の学問として取り入れていける環境を作りたい。まずは自分の軸を立ち上げ、自分を知り、境界線をなくしていけるように勉強したい。
＊ＳＨＩＥＮの事を知らなくて受講しましたが、学習と気づきの違いや、今までと違った考え方、他者とシェアする事で問題が問題でなくなることなど、もっと学びたい。
＊７年ぶりのＳＨＩＥＮ学、忘れてしまっていた大切なことを思い出して感動！「してもらう能力」のことをすっかり失念していました。もともと自分でやってみたがりだけど、最近行き詰まりを感じることがあった。天分、自分の違いもハッとしました。「頑張り」は天分ではなくて「自分」のこだわりからきていたのかもしれません。今日の話を夫（高校の教員）に伝えたいけれど、まず私が（理屈ではなく）夫と「してあげる/してもらう」を実行していこうと思いました。みなさんとあたたかな時間を持つことができて幸せ！７年前にみつけた自分の天分に大筋は沿った暮らしをしているのを発見したことは嬉しいことでした。
＊いつも1人で何とかしようと頑張っていたけれど、最近限界を感じていたところに出会ったＳＨＩＥＮ学！「してもらう／してあげる」の世界で過ごして行きたい。自分の中にあるものが引き出され、自分が欠点だと思っていたことが良い所だったり、１人では気付けないことが気付けて、とても貴重な時間を過ごすことができました。
＊「ＳＨＩＥＮ」が「支援」ではないことがよくわかった！小学校の教員をしていたので、なぜ教え込みの教育ばかりなのかと悩んでいたけれど、その違和感が先生の説明でよりわかった。支援してあげることは好きですが、してもらうとなると少し抵抗を感じます。これからは、もっともっと周りの方々から「してもらって嬉しい」と言葉にも態度にもっと出していきたい。「させる／させられる」という言葉、とてもひっかかりました。仕事柄、させてばっかりだったなぁ～と反省です。子どもたちは、させられている感が大きかったことでしょう。2020年には、学校現場もごろっと変わると言われているので、ＳＨＩＥＮの方向に進むかもしれません。楽しみにしています。
＊とても引き込まれる内容。ＳＨＩＥＮ学の事をもっと深く知りたい。また熊本に来られる時は、ぜひお会　いしたいです。先生のお話を聞きたい！



SHIEN学「SHIEN学を深く学ぶ3つのコース」・セミナーのご案内

SHIEN学をさまざまなスタイルで学び、活躍していただくために、これまでの「ファシリテーション（アドバイザー・マスター）コース」に加え、**SHIEN学「SHIEN学を深く学ぶ3つのコース」**として 「プラクティショナーコース」「シンポジウムコース」を新設しました。 各コースは次のような内容です。

コース名	内容	コース構成	開催日
ファシリテーションコース	有償でSHIEN学の講演、ワークショップを実施したい人向け。SHIEN学アドバイザー、SHIEN学マスターの資格取得ができます。	基礎編、応用編、実践編	年6回予定 （関東・北海道・九州）
プラクティショナーコース	SHIEN学を自分の生活に取り入れて実践し、生活の質を上げたい人向け。有償講演等はできませんが、SHIEN学をより深めたい方に最適なコースです。	基礎編、応用編	年6回予定 （関東・北海道・九州）
シンポジウムコース	二人以上のコース修了者で有償・無償のSHIEN学に関わるイベント開催が可能です。イベント実施にあたってのシナリオをアカデミーよりご提供します。	基礎編、応用編、実践編	年6回予定 （関東・北海道・九州）

●2018年度の開催日程

日程	地域	開催講座	会場	申込
2月2日（土）	九州/長崎	アドバイザー プラクティショナー シンポジウム	Soul Blossom 長崎県島原市弁天町1-7055-1	終了 しました
2月9,10日 （土/日）	九州/福岡	天分発見ワークショップ 福岡 ①	福岡県	受付中
3月2日（土）	北海道 札幌	アドバイザー プラクティショナー シンポジウム	札幌 Café tone 札幌市北区北23条西10丁目1-6	受付中
3月3日（日）	北海道 札幌	第30回 SHIEN学 1日セミナー（〇´∀`）ﾉﾞ	札幌Café tone　料金7700円 札幌市北区北23条西10丁目1-6	受付中
4月20,21日 （土/日）	九州/熊本	天分発見ワークショップ 熊本 ①	九州/熊本	受付中
5月11,12日 （土,日）	東京	アドバイザー プラクティショナー シンポジウム・マスター	東京	受付中
5月25,26日 （土）	九州/福岡	天分発見ワークショップ 福岡 ②	カフェGALA de EAU （ガラドオウ） 福岡市清川2丁目9－2タイセイビル1階	受付中

いよいよ「天分発見ワークショップ」は九州福岡/熊本にて…

SHIEN学の主要コンセプトのひとつ「天分」に気づくワークショップです。

伝説の「天分発見ワークショップ」次回開催は、2/9 (土) ・10(日)@福岡

お問い合わせ、ご参加ご希望の方は、メールでお知らせください。

一般社団法人SHIENアカデミー静岡
お問い合わせ/お申込み　shien.academy.1@gmail.com
http://www.shien-academy.jp
http://www.facebook.com/shiengaku/

SHIEN学と私の出会い
（シリーズ３）



初代牧之原市長 西原　茂樹

前回まで

県会議員四期を経て、合併で誕生した牧之原市の初代市長に就任された西原さん。フォーラム牧之原を立ち上げ、市民協働のまちづくりに取り組まれますが、すぐに対話づくりの難しさに直面されます。その頃、静岡市内のシンポジウムで舘岡先生の講演を聞かれました。市民ファシリテーターと「自らやる気が起こる場を創ること」が、市民の方々と行政課題に取り組むヒントになっていきます。当時は東日本大震災の直後で、防災対策が喫緊の課題でした。

職員との対話、市民との対話～津波防災まちづくり計画

平成２３年３月１１日東日本大震災が東北地方を襲いました。日本人の誰もが、いや世界中の人々の記憶に、まだ生々しく残っています。次々と入る津波の情報に加え「これが引き金で東海地域などでも地震が起きるかもしれない」と不穏な情報が流れました。そんな中で「浜岡原子力発電所を止めよう！」と言う動きが起こり本当に当時の菅政権は浜岡原発を停止してしまいました。私はその後に「永久停止」を訴えていくことになりますが、ここでは、津波対策についてお話します。

緊急対策で、代表の自治会長を呼んで話しました。「今まで私たちは想定される東海地震対策で津波対策は万全だと考えてきたが、東北で起こったことを見ると責任は持てない。だから今、地震と津波が来たら逃げるしかない。高台が裏にあるところは自分たちで応急の避難路を作ってほしい。三分の二の補助金を出します」と。

しかし、人口密集地は、平野部で海抜５メートル近辺が多く本当に襲われたらどうしようもなかった。国はそれをあざ笑うように「牧之原市は５万人の人口のうち１３千人が津波で死にます！」と言う被害想定まで公表しました。さらに津波が来る範囲まで丁寧に示してくれました。心配した市民は「早く津波避難タワーを作って！」と、市にやんやの催促で迫ってきました。お隣の町も、そのお隣もトップダウンでまだ津波の規模も高さもはっきりしないのに津波避難タワーの建設を急ぎました。内容はどうでも良かったわけです。とにかく安全のために市長と市役所が作った！そんなパフォーマンスとも見て取れるものまでできました。今、他市にあるそのタワーは見る影もありません。

津波避難タワーは１基、数億円します。市内全部では数十億円もかかりますから国の補助金（交付金）が必要です。そのためには国に計画書を出さなければなりませんでした。担当者は「市長、すぐに計画書を作りましょう！一刻も早く国に提出してお金をもらいましょう」と言ってきました。

私は、そのように迫る市民や職員に向かって話をしました。「津波避難タワーは、完成すればここに津波が来ますよ！と言う宣伝広告タワーだ。津波が来るから、家を立てる人はよそに引っ越す。良かったねと喜んだ人もやがて年取って歩けなくなると、津波が来たら誰があそこまで連れて行ってくれるのか！と悩まなければならない。やがて３０年もしたら周りに住宅がなくなってしまうかもしれない。地価も下がる。」そうなった時に「市が津波避難タワーを作ったから悪い」と言われても困るだろう。つまり、避難タワーを作ることと、自分の住むところのまちづくりは同じなんです。だから真剣に３０年後や、もっとずっと先まで考えて計画作りをしなければならないと思ったわけです。

ここは市民と一緒に作ろう！と思いましたが、さて作戦です。政策協働部長として私と１２年一緒に市民協働をやってきた加藤君を呼びました。「市民参加でやりたいが、部課長にも協力してもらう。できるだろうか？」私の問いかけに「できますよ！」と、彼は自信ありげに微笑みました。決まった。・・実

次ページへ続く▼

SHIEN学と私の出会い
（シリーズ３）

▼前ページより続く

はそれまでの市民参加は、市民ファシリテーターや自治会も頑張ってやってくれました。自治基本条例の意見出しや自治会のあり方などそれなりに協働の仕組みづくりができてきていました。しかし、今から振り返ると、この津波防災まちづくり計画策定がなかったら、牧之原市の対話による協働のまちづくりはできなかったと確信しています。あの時に加藤君の「やりましょう」は大きい。

すぐに、部課長を交えたワークショップを開催しました。市民と一緒にやるのだから職員だって総動員でやらなければならない。それに防災課だけに人材がいるわけではない。市役所の中には経験者も含めて至る所に人材が分散している。更に津波が来る地域に住んでいる職員は自分事で参加してほしい。こうして部課長全員参加のワークショップが開催されました。

さすがにこれのファシリテーターは私がやりました。市長が決めるのではない。ワークショップで、職員全員でどうしたら良いのか！と、話し合った上で「全員参加で津波避難計画を市民と作ろう！」となりました。

市内１５キロの海岸線には、５つの小学校がありました。（現在は片浜小学校が廃校になって４校）その学校区ごとに地域計画を作ることになりました。半年間に１０回近くのワークショップを開催しました。そのメンバーが、できるだけ老若男女で、様々な職種、地域の消防団や交番のおまわりさんまで出てもらいました。そして専門家としては、県の土木事務所の職員も出てくれました。

ワークショップの１テーブルに１人くらいの割合で職員を配置しました。実はこれが重要でした。市民だけが話していると「夢と理想か、不満と批判」になってしまう傾向があります。スクール形式で説明会となると、行政批判と意見発表となって批判的となります。

でも小さなグループの中で「実は予算が、実は制度上できないんです」と言うと皆わかってくれます。だから纏め上げていく場合に、行政マンが考えていることと乖離しなくなってきます。

市民が一生懸命にワークショップや現場歩きなどで避難タワーの検討や避難の方法などを考えてまとめていく時にできたものが、「私たちが考えたもの」として完成するのに、こういった行政と市民が一緒にやることはとても重要です。市民も行政もお互いが学び合うから気づきも同じであるから方向性も合ってきます。

ところが、ある時こんなことがありました。海岸に細長く連なった５つの地区が並ぶ学校区がありました。そこでの５回目ぐらいの会合でした。そのワークでは、「どこに、どんな避難路を作って、どんな順番にするか」と言うものでした。この地区は裏に台地があって避難タワーではなくて避難路でした。

私がワークの途中回っていると「市長はとんでもない。俺たちに場所や順番を決めろと言う。誰だって一番に家の裏に避難路を作りたい。仲の良い地域をけんかさせる気か！」と言う批判の声でした。

私は５地区のワークショップ５０回のうち６割以上出席しました。１回のワークショップは、夜の１９時から２１時までの２時間ですが、私の出番はほとんどありません。自治会長が最初の挨拶をして、市民ファシリテーターが進行をします。市長は皆さんが話し合っている会場を時々うろつきますが、基本は後ろで座っています。見た目は一生懸命にメモを取っているように見えますが実は関係のない答弁資料を作ったり他の仕事をしていました。最後の１５分、グループの発表あたりからは本気で聞いてメモを取ります。そして最後に市民ファシリテーターが「あら！今日は市長さんが最後まで聞いていてくれました。コメントを３分でお願いします（２分もある）」そこでのコメントにも工夫をしました。グループ発表の一番最初のキーワードを入れました。良し悪しは関係ありません。そのグループにとってはそれが一番で、そのことを口にした市長はしっかり聞いていて評価したんだ！と判断する。そもそも、会場に２時間も市長がいたのだから「この会はとても重要なんだ！」と改めてその場に来ていた市民は感じます。

そんな時にくだんの「・・けんかさせるのか」が出てきた。私はファシリテーターさんに「今日は５分下さい！」と断って話しました。「皆さんは、この順番でこの場所に作るのが妥当だ！と、市がかってに判断したら、なんと言いますか？俺たちに相談

次ページへ続く▼

SHIEN学と私の出会い
（シリーズ３）

▼前ページより続く

しないで決めた！と怒るでしょう。だから皆さんに決めてくださいとお願いしました。でもけんかして困るなら、市長！私たちはできないから市で決めてくれって言われれば、すぐに作ります！」と説明しました。不満そうな顔がありましたが、結果は自分たちが決定しました。

市民が自ら学んで決めていくのが住民自治の基本です。話が難しくなりそうですが、国も県も市も「地方自治！地方自治！」と叫んできましたが、権限が国から県に来るか市にくるかの違いで、すべて団体自治です。

官僚組織、役人がいずれにせよ権限を握っています。住民自治とは、市役所の職員と住民が一緒にやることです。その作業を牧之原市は自然に学び実践してきました。

この津波避難施設は、各地区で順調に話し合いが行われ整備が進んでいきますが、とても面白い避難施設が完成していくことになりました。

「避難タワーは何億もかけて、いざと言う時だけではもったいない。壁さえつければ建物になる！」当たり前の発想ですが、補助金をくれる国は「目的は避難タワー、それ以外はだめ！」でした。ちょうどそのころ、海岸にあって津波が心配な商工会会館の移転が取り上げられていました。商工会の皆さんは「高台が良い」と、最初は牧之原インターチェンジの市の所有地を譲ってほしいと言ってきましたが、あまりにも中心地と離れていると言うこともあって、次には相良総合グランドの駐車場の一角を希望してきました。そこで決まるかに見えましたが、電波障害があってだめとなると今度は相良総合センターのこれまた駐車場の一角を希望してきました。

さすがに私はその時には持論を切り出しました。「商店街は市の中心部にある。市民もたくさん住んでいる。そこには避難タワーや避難ビルも必要だ。逃げるのではなく、商工会さんが市民と一緒になって会館と避難施設を一緒に作りませんか。」と言っては見たものの確証があるわけではありませんでした。

国の補助金は避難タワーにしか出ません。建物では出ません。しかし何度か国とやり取りする中で「一押しすればいけそうだ！」と言う感触を感じました。そこで地元の井林衆議院議員にお願いして国土交通省に出向きました。商工会員バス１台で事務次官室に押しかけて迫りました。さすがにその勢いに押されて「わかりました！」と了解をもらいました。

現在その避難ビルは、１階が商工会、２階が防災センター(会議室)、３階が防災備蓄倉庫、そして屋上が避難施設となっています。

こんなやり取りも国としました。牧之原市は平野部と、すぐ海際まで台地が迫っている地域があります。台地があるところは避難タワーではなくて、高台に通じる避難道路が必要！が市民が出した意見でした。ところがここでも難題が起こりました。「避難道路」は補助対象だが、道路交通法の道路が補助対象でした。一部が階段や細い道ではだめと言うことでしたが、これも国会議員さんを頼んで交渉しました。つまり避難タワーの階段部分を作るのだから認めてほしい！と。これも叶いました。

市民と一緒に計画した避難施設には、既存の丘を活用した防災公園、不要となった残土を活用した命山公園、などもできました。避難タワーの建設でも市民は様々な意見を出し合って、より良い施設にしていきました。牧之原市の避難施設は、市民参加を含めて避難タワーのデパートと言っていいでしょう。

そして何よりも大事なことは「自らプロセスに関わって作った防災施設！」と言うことです。常に自分たちが作った避難施設を利活用して避難訓練をしていくことが、地域の絆を強くして防災意識を強めていくことに繋がっていくからなのです。これこそが、SHIEN学がいうプロセスを自らが構成している状態、プロセスパラダイムの問題解決能力なのです。リザルトパラダイムでは、役割がある人が作ってそれを受け入れるという、お上に任せたみたいなことになりますが、これでは他人事になって実践されません。自らが自らの運命を自分で、みんなで作っていく状態だから、自分事になって本当のパワーが発揮されて、問題が解けていくと考えているわけです。

※住民が「自ら関わって作った防災施設」と実感できたことが、防災に強い地域づくりに結びつきました。次回は、牧之原市の主要産業の危機をどう行政がSHIENできるか。海外との連携のあり方にSHIEN学の理念が活かされていきます。